

寒中御見舞

2024.1.10



汚泥再生処理施設建設工事(有田郡【元請会社：水ingエンジニアリング株式会社】)



南側より

Contents

新年のご挨拶

三洋建設株式会社 代表取締役社長 川口健太郎 2

三洋建設株式会社 代表取締役専務 川口 拓郎 3

竣工物件一例 4～5

施工中物件一例 6

TOPICS 7～8



2023—2024年度 スローガン

地域社会・仕事・家庭と 共に発展する会社となろう

三洋建設株式会社 代表取締役社長 川口 健太郎

冒頭からではございますが、本年はお祝いのお言葉を控えさせていただきますことご了承下さいませ。

昨年3月12日、創業者の一人であり私の父である川口禎男相談役が他界致しました。これまで公私問わず社業発展に尽力し、私に経営のバトンを渡してから1年あまりの事でした。

振り返りますと相談役は、人生の大半を社業に捧げ贅沢を慎み、現在の経営基盤を築き上げて来ました。創業時の日本経済は右肩上がりで、その波に乗りつつもバブル経済の崩壊やリーマンショックと逆境を乗り越えて来ました。晩年はこれまでお支え頂きました方々とのご縁に、生まれ育った故郷に、ともに会社を支えてきた社員、三洋会会員の皆さんに感謝を申しておりました。

私はその志を引き継ぎ、混沌としたこの時代に向き合って参ります。川口禎男相談役これまで本当にご苦労様でした。ありがとうございます。そして皆様にはこれからもご愛顧賜りますようお願いを申し上げます。



さて、これまで対応に苦慮しておりましたコロナ禍も一段落となると同時に、私たちを取巻く環境の変化の早さは加速に加速を重ね、数年前までは考えられないことが世の中の常識となっており、前例のない事が多く何事においても手探りが現状ではないでしょう。

世界では環境問題、人口減少（世界では人口増加）、各地で続く紛争、経済格差、各資源や資材の不安定供給等々、これら全ては私たち人間のおこないから生まれた問題であります。また今日の国際社会では分断と正義のぶつかり合いが常態化し、その結果憎しみの連鎖が渦巻く社会は幸せと言えるでしょうか。私たちが生み出した問題には、私たちが手を携えて取り組まなければ解決は見られません。

そこで弊社の本年度スローガンは「地域社会・仕事・家庭と共に発展する会社となろう」と掲げさせて頂きました。創業時から歩みを共にする「地域社会」、私たちが行っている「仕事（事業）」、三洋建設に集う社員と協力業者やその「家族」の皆さん、この関係性は密接であります。これまでの自社だけが良ければそれで良い利益が全てという時代は限界を迎え、今こそ原点に立ち返り創業時の想いを継承し共に発展出来る環境が私たちの目指す事業を通しての貢献であると捉えています。

きれいごとや幻想と思われるかもしれませんが、生きるためには目的が必要です。幸せな家庭であれば仕事に向き合うパフォーマンスは高く、事業が発展すれば地域社会へ還元出来、地域社会が発展すれば暮らしが豊かになる。この一人ひとりの心を豊かにする好循環の一助となる企業になれば、私たちが目指す企業理念「信頼に足る会社であり 信頼に足る人間であれ」に一步でも近づけるのではないのでしょうか。創業者たちが創った想いをこれからも目指し繋げて行く、その為には状況次第や環境次第にしない、そしてさせない自分たちの足で歩く勇気と力を身に付けて参ります。

結びに、これからも三洋建設グループへのご愛顧を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝、ご多幸を祈念申し上げましてご挨拶とさせていただきます。



時代に即した企業づくりを

三洋建設株式会社 代表取締役専務 川口 拓郎

本年も宜しくお願い致します。皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと存じます。今年も一年、信頼・信用される企業を目指し頑張っていきたいと思います。

昨年は、三洋建設株式会社創業者の一人であり、相談役の川口禎男が他界し、慌ただしさと共に寂しさを感じる年となりました。設立から40年間会社を牽引してきた父親の存在が如何に大きく頼もしい存在であったかという事を改めて実感しました。

振り返ってみますと、仕事に対しては大変厳しく、父親というよりも経営者としての立場で教えられてきた事の方が多かったように思います。しかし、近年の社会情勢や経済状況を考えると40年の経営経験が通用しない事柄が出てきているのも事実です。変えてはいけない事、変えなければいけない事を判別し、これからの時代に即した経営が求められていると思います。

昨年の建設業界を振り返ってみますと、現場での事故・施工ミスが多かったと感じています。特に規模の大きい現場での事故等は大きくニュースで扱われる為、記憶に残っている方も多いと思います。事故やミスの原因は様々ですし、現場を見たわけでもないのに軽々しく批判すべきでないと思っています。しかし、起こった事には原因になるきっかけがあったはずです。

そのきっかけを取り除くのが安全対策であり、安全に対する知識だと思います。無事故無災害の積み重ねが信頼・信用に繋がる一つだと考え、これからも安全への取り組みを続けて行きます。また、品質や出来形の管理に於いても、安全パトロールを行うと同時に現場の進捗状況や完成部分の確認を行い、少しでも第3者の目で現場を見るよ

うに心掛けています。

とは言いましても、細部までのチェックを出来ていない事が私の課題としてあります。この先、IT技術やAIが発達してタブレットで現場を映すと出来形などのチェックをAIが行ってくれるという時代が来てくれればと願っております。

今、全ての業種に於いて人材不足が深刻な問題となってきています。その中でも建設業は非常に人気のない業種だと聞いています。これは業界をはじめ、各社が真剣に取り組まなければならない問題であり、国や地方自治体任せでは解決できません。時間外規制への対応や働き方改革に取り組み、魅力ある業種へと変わって行く必要があります。

私が社会人になった頃はバブル経済が弾けた後でした。その当時は残業・休日出勤は当たり前で、有給取得などもってのほかでした。それが美徳であると考えられていた時代です。

その頃から約30年、今は建設業界の大きな転換期であると感じています。この転換期に知恵を出し、上手く対応できた企業がこの先も残っていけるのだらうと思います。

松下幸之助氏の書籍を拝読すると、過去にも何度か激動の時代はあったそうです。長い歴史から見れば、現在は転換期にも当たらないかもしれませんが、しかし、過去も現在も変わらずその時代に合った対処法を考え、実行していく事が大切だと考えています。

最後になりますが、今年も一年皆様からのご愛顧を頂けますよう宜しくお願い致します。



▲ 汚泥再生処理施設建設工事(有田郡【元請会社:水ingエンジニアリング株式会社】)



▲ 国道424号道路改良工事 (和歌山県)

竣工物件 一例



▲ デイサービス新築工事 (有田郡)



▲ 美浜海岸整備工事 (和歌山県)

施工中物件 一例



▲ 和歌山工業高専体育館新営その他工事 (御坊市)



▲ 和歌山工業高専寄宿舍3号館新営その他工事 (御坊市)



▲ 今福神前線道路改築工事その7 (和歌山市)



▲ 和歌公園観海閣新築工事 (和歌山市)

SDGsへの取り組み

私たちの仕事は、建物や社会資本の整備・維持管理を通じてSDGsの掲げる「誰一人取り残さない社会」の実現に大きく貢献することができます。

建設業はどの時代においても「暮らしを豊かにする」変わることのない重要な役割を担っています。その役割を果たすことで、SDGsに掲げられた社会課題の解決にも貢献できます。

三洋建設の企業理念である「信頼に足る会社であり 信頼に足る人間であれ」のもと、一人ひとりの人間力を高め、私たちの「ものづくり」が皆様から信頼され、社会へ貢献できるよう事業に取り組んでいきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



救急救命講習会の開催



昨年6月に有田川町消防本部様に協力いただき、「救急救命講習会」を実施しました。この取り組みは以前から定期的に行われており、事故・災害発生時に適切な処置を施せるよう行っております。人形を用いて心臓マッサージなど心肺蘇生法の手順とAED（自動体外式除細動器）の取り扱いを訓練しました。

迅速な対応が生存率の上昇に繋がることを知り、業務以外においても人命救助の重

要性を再確認する講習となりました。

和歌山県では南海トラフ巨大地震の発生が危惧されており、防災対策も今後増えていくものと思われます。「ものづくり」・「防災力」どちらの面でも活躍できるよう。活動を続けていきます。



令和5年度 三洋建設グループ 品質・安全衛生推進大会開催

当社では三洋建設に関わる全ての労働者の安全と健康を最優先とする労働安全衛生活動に日々取り組んでいます。

昨年11月に協力会である「三洋会」との共同で令和5年度「三洋建設グループ品質・安全衛生推進大会」を開催し

ました。

大会には和歌山県・有田川町の幹部の方に来賓としてお越しいただき、労働災害防止を推進するご挨拶をいただきました。また「優良企業表彰」として、品質・安全において高い実績を残した

企業の功績を称え表彰状と記念品の贈呈を行いました。

記念講話では、御坊労働基準監督署より監督課課長様にお越しいただき「どうする？建設業の働き方改革」と題して、来年度より施行される法改正による時間外労働の上限規制の導入への対応をわかりやすく講じていただきました。

今後も労働災害防止活動をより推進し、時代に沿った安全、品質の高いものづくりに努めて参ります。



三洋建設代表あいさつ



表彰企業との記念撮影



御坊労働基準監督署様による記念講話



現場事例報告

故川口禎男相談役社葬の御礼

弊社相談役川口禎男（享年81歳）は令和5年3月12日、安らかに生涯の幕を閉じました。

会社として「お別れ会」を4月にフューネラル吉備にて執り行いました。ご参列いただきました皆様、ご多忙の中、お越しいただき誠にありがとうございました。

故人が生前大変お世話になった皆様には弔辞を始め、大変温かいお言葉を頂戴しました。



多くの皆様のご厚意・ご協力によりお別れ会を無事に執り行えましたこと、改めて御礼申し上げます。

社員一同、相談役の強い意志を引き継ぎ、今後も社会に必要とされる会社を目指し、進んでまいります。

三洋会活動報告

昨年6月有田市橘家旅館にて三洋建設グループ協力企業で組織する「三洋会」の第39回定時総会を開催しました。

新型コロナウイルス感染症の5類感染



症移行後、初めての総会となり、人数などの制限のない開催となりました。

総会中は昨今の業界の状況を分析、共有しました。

各種産業において人材不足が問題視されている中、建設業は一際顕著であ

り、建設資材の高騰や変動に伴う激しい受注競争環境下にあります。

協力企業とのパートナーシップをさらに強固なものとし、厳しい状況を追い風としていくことを再認識する場となりました。



～お客様へより良い住まいを～

(株)明建ハウス

【施工実例】

私たちは住宅ビルダーとして、それぞれの環境によって異なるお客様の「希望」や「お困りごと」一つ一つと向き合い、「自分らしさ」を引き出す住まいをお届けできるよう努めて来ました。

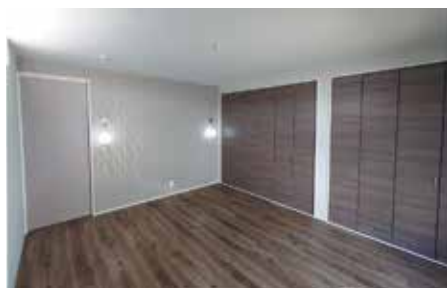
新築に限らず、リフォームの分野でもライフスタイルに合わせた理想をかたちにし、低コストで高品質のサービスをご提案させていただいております。

また、完成・引き渡しが終わりでではなく、定期訪問やメンテナンスも暮ら



しの一部と捉え、お客様との繋がりを大切にしています。

これからも多くのお客様に出会える



よう、歩みを止めることなくさらに上に向かって挑戦を続けていきます。

新年がスタートしました。昨年を振り返りますと、暖かい気候とともに待ち望んだ日常が戻ってきたように思われます。

これまでの経験を活かし、明るい未来に向けて飛躍できる一年に期待したいものです。

近年、私たちを取り巻く環境は絶えず変化しています。

そのような中で社会に求められるものに答え、貢献できる企業を目指しています。そのために、新たに挑戦しつづける姿勢で日々の仕事に取り組みんでいます。

これからも三洋建設の「ものづくり」でお客様の期待に応え、満足していただけるよう社員一同誠意努力して行きます。今年も温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（広報担当）

編集後記